「お盆」と「施餓鬼会」の違いをご存知ですか？

慈眼山 萬福寺　住職
安本 由道

お盆の季節に伝えたい大切な縁

「お盆」という言葉を聞くと皆様は何を想像しますか？　夏休みで故郷へ帰る、またご先祖様のお墓参りなど、昨今、年月の経過と共に変化していますが、お盆は自分と亡き人、今ある両親、兄弟姉妹、親類縁者とのつながりをもっとも強く感じる、一家にとってかけがえのない大切な日なのです。

昔からお盆を迎える行事としては地域にもよりますが、朝顔市、ほおずき市、七夕祭りなどがあげられます。特に七夕祭りは、お盆に帰ってくる祖霊のよりどころとなる旗をたてるタナ（精霊棚）だという説があります。現在でも仏壇から御位牌を精霊棚に移して安置し、その四方に笹竹を結び短冊（お盆旗）を設ける地方もあります。

現在は精霊棚を別に設けて飾る場所がないご家庭がほとんどと思われますが、お盆はご先祖様を偲びその縁に感謝し、子から孫へ代々伝えて行かなければならない大切な供養です。

大施餓鬼会（施食会）卒塔婆供養とは……

「お盆」行事の一つと思われている「施餓鬼」ですが、実は全く別の行事です。お盆は先祖、亡き人を偲びその冥福を祈って供養しますが、施餓鬼はすべての生きとし生けるもの、また三界の万霊、有縁・無縁の霊を供養するとされているのです。

「餓鬼」とは欲望をいましめ、心の大切さ、自分自身に与えられた生命に感謝し、長寿を願う、という意味もあります。人間だけでなく、すべての生命に対する感謝の法要です。「施」すなわち布施の行為は、慈悲の心を持った人にしか実行できません。これを「菩薩行」と言います。

私たちは感謝の心を忘れていないだろうか。慈悲の心があるだろうか。日々、無為に過ごしていないだろうか――自らの生き方を反省し、慈悲心を持った人々が沢山集まって供養する、これが「大施餓鬼会」です。

限りある人生の中で大切なことは善を積む（良き行いをすること）、善（良き行い）の種をまくことです。良きことをすると直ぐに功徳が廻ってくるとは限りません。種を蒔いても実りを得るには時間を要するように、善果を得るには遅速の違いがあります。とりわけ、先祖・亡き人に対する追善供養は最大の善因とされ、その中に卒塔婆供養があります。

施餓鬼の供養は最高の功徳

塔婆供養の功徳は、塔婆を建てることによって故人が成仏できるという功徳、さらに、供養した人に回向される、とされています。何もしなくて良きことがあれば、先祖様の蒔いた種子が実ったと素直に感謝し、我が蒔いた種子は子々孫々にわたり功徳がありますようにと願うのが慈悲心です。年に一度の大施餓鬼会では、すべての仏様、生きとし生けるものが供養されます。自らの善行をかたちにした卒塔婆供養、これ以上の功徳はない法会なのです。

お盆・大施餓鬼会の意味、読み方や由来は沢山ありますが、昔からご先祖様に感謝し、子孫繁栄を願う供養に変わりはなく、まだまだ説明をするには紙数が足りません。法話の機会に直接お話しさせていただきますので、是非ご来山くださいますよう心よりお待ち申し上げます。